

NO.10 こどもとつくる作品展～三学年での共同制作を通して～

極楽坊あすかこども園 久保田詩織 山中真智子 中野優子

背景・目的

子どもの主体性を発揮するには？
カリキュラム・行事の在り方を見直してみよう！

主体性って何だろう？
自分の意志・判断で行動しようとする態度

こども園教育・保育要領には？
子どもが自発的、意欲的に関われるような環境を構成し、子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にすること

子ども自身がやりたいと思って取り組み、自分たちで考えて工夫していくための環境や配慮とは？

取り組み

1. 作品づくりにむけて

興味のあるものだと創作意欲がわくと考え、観察や会話からテーマを「恐竜」とする。

各学年で作る恐竜を決めるため写真や説明を載せたアンケートを実施する。

ティラノザウルス



好きな恐竜にシールを貼って投票した。恐竜への興味や知識のばらつきを防ぎより興味関心が深まった。

2. 恐竜について学ぼう

恐竜へのイメージが深まるように生態を調べ掲示した

なんでも食べるんや



モササウルスが一番大きい

恐竜の大きさや食べ物などイメージを膨らませている。制作を進めるときには色や形を参考にしていた。

3. 制作の様子を通して芽生えている力

はしっこまでコロコロしよう

色が混ざったね



ブラキオサウルスの体の制作

どうやってつくる？



ブラキオサウルスの顔を制作

目はどこにあるかな？

ここはあし？

三角の形がほしいな

しっぽのところ！



恐竜の化石を制作

自立心：自分達で色がついていない部分を探し、どのくらいの量を塗ればいいのか考えている。

豊かな感性と表現：絵の具が混ざっていく様子に気づき、友達と共有している。

協同性：友達と図鑑を見ながらどこに目や鼻がついているのか相談している。

思考力の芽生え：画用紙やはさみなど素材や用具を選び図鑑を見ながら制作している。

言葉による伝え合い：身体の中の部分を自分の知識を披露したり、友達の話の話を聞いて相談している。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚：下書きの骨格に合うパーツを考え、隙間なく貼ろうとしている。

まとめ

アンケートから子どもの興味が広がっていった。恐竜の資料を見て友達同士で話し合い、作り方のイメージがわいている様子であった。実際の制作では、色塗りや、貼り付けの体験を通して、アンケートや図鑑の資料から見て気付いたことを使い、表現するにはどうすればいいか考えていた。また意見がぶつかってしまった時には多数決で決め、みんなで相談している姿が見られ、主体的に活動できたのではないかと考える。

保育教諭は様々な素材や道具が選べるよう用意したり、年齢に応じて土台づくりをしていた。成長につれ自分で考え、試行錯誤していくためにどのような経験が必要なのかまた学年に合わせた環境はどういったものがあるのか、これからも話し合いを重ねていきたい。